

ほんりゅう 本流に沿つてそのまま2キロほど下ると、180メトル四方はある砦の跡を見ましたが、今はイバラ

や低木のハシバミなどが生い茂っていました。ここを過ぎて少し行くと、1軒の家がありました。そこはシユンクラン家で4人が暮らしていましたが、家に入ると私たちを見て驚き、その上、私たち一行にイソテクがいることにも驚いて、丁寧にもてなしてくれたので、ここに泊めてもらうことにしました。ガガイモの一種のムツケを煮たものをごちそうになりました。

さて、そこで去年の冬、石狩から14種もの宝物を盗んで行方をくらましたイナヲクシのことを尋ねてみると「その者なら、美馬牛にいます」とのことです、まずは一同安心し、それからこの家の主人、シユンクランに十勝川上流の案内を頼んでおきました。

まさら雄の ここで十勝と 聞よりも
まず名を愛て 一夜寝なまし

(我々勇ましい男たちはこの先「ここが十勝ですよ」と聞かされたなら

まずはその名前の美しさに感心し、そのあと一夜は眠つてしまふのかもしません)

3月11日

曇り。シユンクランの道案内で、ほんの少しの食糧米を持って、川の西岸に渡り、茅の原っぱを過ぎて2キロほど行くと、バンケニヨロフという小川に出ました。この辺りの川は浅く、崖の上から滝のように流れが落ちてるので、この景色を向こう岸から眺めたら、さぞかし景色が良いだろうと思いましたが、残念なことにここからでは滝口から滝つぼを見る形になり、その素晴らしさを十分に知ることはできません。ベンケニヨロフもまた同じように滝になつて落ちている川です。

この辺りは所々に仕掛け弓が数多くあるので、とても危ない場所でもありました。ここからまた2キロほど上るとレーラウシの川原、アイカツプの大岩があり、さらに2キロほどでベンナイとオソウシの小川を過ぎると、その辺りは雑木林がずっと続いていました。

1.7キロほど歩くと、今度は針葉樹の山になりました。ここまで道らしいものはありませんでしたが、ここからはトドマツが倒れていますところを跨いだり、くぐつたりしながら進む道となりました。